

令和 6 年度第 3 回総合計画策定審議会 要旨 (委員意見分)

日時：令和 6 年 8 月 2 0 日

午後 2 時から

場所：三木市役所 大会議室

(委員)

- ・ 前回の審議会の意見を反映していただいて、ありがとうございます。27 ページの「新たな視点・方針」で、農業振興について、前回も申し上げたように、多様な担い手で農業社会を守っていることについて、「農業の持続的発展のためにその基盤となる農村振興に取り組んでいきます。」と書いていただいている。先ほど説明にも取組について個別施策あるいは関係課で検討していくということあったので、引き続きお願いしたい。農村では人が少なくなり維持が難しくなっているため、引き続き指導支援をお願いしたい。農業振興についての2行目に「認定農業」とあるが、「認定農業者」として欲しい。
- ・ 最終版に向けて校正を行い、誤字脱字だけではなく、その表現は妥当であるかを確認して欲しい。113 ページの産業振興について、114 ページの赤字で書いていただいた地域計画は良いと思う。最後に「地域計画の策定を地域とともに取り組みます。」と書いてあるが、策定は市の義務であるため当然であり、例えば「策定の推進を地域とともに取り組みます。」と直してはどうか。また、市民に進めていただくことの3つ目に「地域計画の話し合いを通じて、地域の農地は自分たちで守るという意識の向上」はまさにそのとおりであるが、元々記載のあった124 ページには、市民に進めていただくことに「集落ごとの実行に向けた取組」とある。農業振興の項目でもあった「意識の向上」を「実行に向けた取組」と記載したほうが良いと思う。
- ・ 113 ページの農業振興に対する満足度の2029年の目標が50%に満たないという課題がある。50%以下の項目は、このほかに2つだけある。1つは131 ページの「電車バスの交通機関の利便性の満足度」は、30.5%である。2つ目は、115 ページの創業支援について、「中小企業振興に対する満足度」は50%である。中小企業振興と農業振興を比べてみると、実績としては農業振興の方が高い。中小企業振興は少しずつ上がっている傾向があるが、中小企業振興と農業振興の整合性はとれるのか。

各課からの数値であると思うが、全体として調整したほうが良いと思う。先ほどの、電車やバスなどの交通機関の利便性は、85ページの公共交通の指標になっておらず、121ページの利便性の指標にもなっていない。利便性の指標には、「高齢者福祉施設の整備や施策の満足度」となっている。先ほどの文言を含めて、全体として検討していただいた方が良いと思う。

(会長)

- ・目標の立て方については目標値設定の根拠を記載する必要はないが、他の各項目間で全体的な整合性が取れるようにしていかなければいけないというご意見だと思う。今後、市で検討していただきたい。また、神鉄やバスなどの利用者数は人口が減少している中、目標値のように増えるのかと疑問である。簡単に測定できる指標と満足度を尋ねている指標がありどのように指標や目標を置いているのかも一つポイントだと思う。これを目標として「できた」と言って良いのか、指標、目標値の各項目の整合性についても所管課で検討していただきたい。

(委員)

- ・総合計画の基本的な考え方や構想は、2029年まで設定されているため、私からは次回の総合計画における、目標設定や構成について申し上げたいと思う。
- ・まず、4ページから5ページにかけての時代背景は、総合計画はしっかりと書かれており、特に、不易（世の中が変わっても変わらないもの）と流行が一緒に書かれている。現在は先が見えない社会と言われており、確実にわかっていることは、2035年には65歳以上の人口が国民全体の3割を超えてしまうという現状である。総合計画がしっかりと時代を認識した上で、適切な対策をとる必要がある。「2 安全・安心への関心の高まり」は、災害が増えてきており、そういった点で流行に当たると思う。3、4も流行に当たると思う。これはデジタル化社会がどのように変わっていくかわからない。また、国際社会の中でも経済がどのように動いていくかわからないという点で、流行の部分に当たると思う。不易の部分においては、大切にしたいと思う部分であり、5と6がそれに当たる。価値観の多様化、人との繋がり、地域コミュニティが不易にあたる部分だが、時代が変わっても何十年後になろうが一番大切な観点だと思う。教育の分野に関わっている身としては、三木市の課題について、前回委員の皆様からも、学力の

低下などの指摘があったが、それとともに子どもや大人に限らず、1人1人が尊重され、繋がりを持ってお互い支え合うことで、教育の分野においては人づくりに重点を置いている。それも不易にあたる部分である。この総合計画の人を大切にする視点でもって政策に繋げていけば、三木市の活性化に繋がっていくのではないかと考える。

- ・構成について、次回の総合計画に活かして欲しいと思う点である。私も自分の知らない分野にも目を通していただいたが、どれが流行でどれが不易か全く分からない。次回、構成する上で、何十年経っても変わらないものはあると思う。不易の部分と、流行の部分を分けた方が良いのではないと思う。それにより、政策も考えやすくなると思う。

(会長)

- ・時代背景に合わせて変えていかなければならないこと、根本的に不変な項目を整理する。逆に言うと、長期的に維持していかなければいけないものと、短期的に環境適応していかなければいけないものは違うと思う。そのあたり、特にDXやIT化、価値観の多様化はどのように進むのか分からないが、人と人との繋がりなどは長期的に維持されなければいけないものとして、今後も考えていくことが必要だと思う。

(委員)

- ・総合計画は、多岐に渡って書かれており、市役所が進めること、市民に進めていただくことについて意見を申し上げたい。地域の人材について、私たちは普段、市といろいろな所で接しているが、何かが変わってもあまり分からない。総合計画のチーム三木が取り組むことの具体的な策やスキームが、伝わっていないと感じるので、市民はどのように関わればよいかを書けば良いと思う。54ページで「人の目の垣根隊の充実」とあり、人数を増やしたいと想定されるが、市民に進めていただくことの項目について、市民には何をしたらよいのか分からない。具体的に、市民が何を進め、市が何を進めるかを確認していただきたい。
- ・事務局から説明があった、資料1の3ページ、「次期計画策定に向けての検討事項」は、具体的にどう考えているか教えて欲しい。また、委員からの意見について、「個別施策および今後の事業の参考とする。」は、どうアクションを起こされるのか。その中で、特に1つの課や部ではできないことがたくさんある。誰が主導権を持ち、個別計画においてどのように今後の事業の参考とするのか。また、具体的なアクションを起こしていただか

なければ、市民はなかなか動けない。苦勞してまとめていただいているが、市民が相当前から認識している課題であり、それを事業の参考にするという言葉にした意味を教えてください。

(会長)

- ・課題の認識として、新しく起こる課題は、必ずしも1つの部局に任せたら済むという話ではなくなっている。産業振興、農業振興、人口問題など、部局をまたぐことが多く、対応しきれなくなっている。市役所の役割分担を変えてくださいというのは、急には難しいことである。「担当部局にお任せする」というようなやり方では、課題に対応できないということが多数起こっている。事業の参考にすると書いているが、どこが関与してやっていかなければいけないのかという意味合いとして、私は理解をしている。例えば、「結婚出産子育てを支えるまち」の「結婚」は、縁結び課だけで行うという話ではない。どこが連携してやらないといけないかという調整が多くなってくるということである。

(部長)

- ・総合計画は、羅針盤のように市政全般の方向性をお示しする計画である。1回目、2回目の審議会で各委員の皆様から、具体的にこのような政策が良いのではないかというご意見をいただいた。非常にありがたいご意見だが、個別の具体的な内容につきましては、総合計画以外の個別計画の中で取り入れていく形になる。個別計画として、例えば福祉分野、産業分野、子育ての分野などで国から要請されている個別計画も多く、各種分野で計画を作成している。その各種計画で、より具体的な事業内容をお示したような計画となる。例えば、目標値についても、より詳細な数値を用いまして、政策の推進を図るという仕組みになっている。総合計画の審議会でもいただいたご意見につきましては、より個別の具体的な計画策定の中で審議する過程において、参考にさせていただいて、できる限り取り入れた計画を作成したいと考える。会長もおっしゃられたが、いろいろな課題が発生する中で、1つの部署で完結するものが少なくなっている。1つの事業を進めるにあたっても、庁内で関係各課の担当者また所属長や各部長が集まったプロジェクトチームのようなものを作り、政策を進めている。そういったことで、それぞれの担当部署においても、1つの部で完結するものばかりでないことは十分認識しているため、横の連携もしながら、この度いただいた意見を今後の事業に活かしていきたいと考えている。

(会長)

- ・ 具体的過ぎるものと抽象度の高いものとフェーズが違うところは全般的にある。とは言え、不明確なことばかりを書くわけいけないため、いくつかに具体的に進められる政策については、内容を記述しているため、読み手側からすると若干の混乱はあると思う。整理の仕方に、私も妙案はないが、良い方法はないのかと考える。また今後、検討いただきたい。

(委員)

- ・ 今回三木市の政策や取組について理解できたことは非常に勉強になった。これを実行すれば素晴らしい三木市が10年後にはできるのではないかと感じている。その中で、28ページに「高齢化が進む本市の住宅団地を大和ハウス工業と官民連携で、永続的に世代が循環するモデルタウンとして再生する」と記載してある。青山7丁目は約7万平米ほどの土地がある。そのプロジェクトで自治会と意見交換をしている。最近は新しく「団地再生プロジェクト」という名称となり、青山7丁目で素晴らしい団地を作ろうとしている。その中で具体的に発表されたのは、特別養護老人ホームである。人口減少する中で、高齢化が進んで空き地がたくさんある。私は三木が好きになって神戸市から移住した。非常に環境もいいし、災害も少なく良いまちだと思っている。このプロジェクトが成功して地域に喜んでいただけるまちづくりをお願いしたい。先ほどもあった、人の目の垣根隊についてだが、私も自治会の老人クラブをしており、これがスタートしたときからずっと子どもたちと関わるがあった。当初は老人クラブも非常に加入率が良かった。63ページに820人と書かれているが、私の感じでは実際に活動している方はもっと少ないと思っている。ボランティア活動のような方が多かったが、最近は70～75歳まで働いている人も多く、社会全体で子育てに目を向ける必要があるのではないかなと思う。それには、現在も人の目の垣根隊の事業を行っているところであるが、士気を挙げてみんなで呼びかけて、今後の安全安心を守れるように取り組んでほしい。

(会長)

- ・ 担い手はどの分野でも誰がやれるかが大きな問題になっている。「担い手を増やしましょう」とは言うが、実際にどういった方をお願いしていくのか、関わっていただくのかというのはかなり大きな問題になっている。人

と人との繋がりが必要となる部分、I Tなどに役割を転換していかなければいけない部分が出てくると思う。ただそうは言っても、中期的には人が対応していかないといけないため、今後地域との関わり方は、どのように個人がかかわっていけばいいのかが課題となる。これまでの先輩方のように活動できるのか疑問に思う部分もある。

(委員)

- ・総合計画を見させていただいたが、よくできていると思う。チーム三木として人づくりが一番大切なものであるが、項目としては市役所が進めること、市民が進めること、企業・団体が進めることに分けられており、市役所が主体で行っているため、市役所が進めることは非常に具体的に書かれている。市民が進めること、企業や団体が進めることは、何をあげたらいいのか、無理やり充てている節もあり、果たしてそれが本当に必要なのか疑問である。市から要求されていることは、「こういったことをやってください」とあるが、それはどれも足かせがあるような節が非常に多く感じる。そういったところを、現場サイドに見ていただければもっと良いものができると思う。
- ・昔は全国的に人権学習があったが、現在も兵庫県では熱心に進められていると思う。もちろんそれはやるべきことであるが、「人権学習をやりますから集まってください」と言うのと、理由をつけて行きたくないという風潮にある。最近、外国人などの人権問題もある。「人権」という言葉の表現について硬く感じる。総合計画でも人権という項目があるが、もっとよいニュアンスや何か良い表現がないかと感じる。
- ・西田委員も言ったように、人の目の垣根隊は、非常に頑張っている。これはもちろんボランティアでやっているが、交通安全協会にもそのようなボランティア会員がおられて、立ち当番をしておられるが、認知されていない。頑張っている認知度がもっと上がれば良いと思う。総合計画に書き込むわけではないが、このようなことをどこかで取り上げていただきたい。

(会長)

- ・やはり担い手の問題だと思う。市民の自発的、自主的、自立的活動に頼りすぎているのではないかというご指摘だと思う。活動される方は固定化していて、自発的に取り組まれている方のご負担がどんどん多くなっている上に、人知れず苦勞されている状況もあると思う。市民の皆さんがご存知

ないという課題もあるかと思うし、後継者や引き継がれる方をどのように発見して繋げていくのかだと思う。市民としての活動の項目全般に言えることである。市民の方々だけに頼ることは難しいとは言え、現在のところ現役で働いている方には何ができるかも難しい。どうしていくかが課題である。

(委員)

- ・回答がありましたとおり、チーム三木という形で、行政がすること、市民が進めること、企業が協力することが上手に書いてあると思う。総合計画は10年ごとであり、現在半分が過ぎ、今後もいろいろなことが変わっていくのではないかと思う。交通面でバスが少ないとあるが10年も経てば全部自動運転で走る車ばかりになるかもしれない。この総合計画は羅針盤であり、三木市はこのようなまちにしていきたいということを書いた方がよいと思う。状況はどんどん変わっていくだろうし、今ここに書いていても全然違ってくる。総合計画にはあまり入っていなかったが、都市計画のようなものや産業団地を作る計画があると思う。そういった場所には就職もあり人も集まってくる。そういった計画も入れてもらえればよいと思う。DX化やIT化が進んでいるが、人が集まらなるとまちは元気にならないため、人が集まってもらえるまちづくりをして、安全安心であるまちにしていってほしい。また、三木市のPRをしていくことも入れてもらえば良い。

(委員)

- ・我々三木青年会議所がどんな団体かを改めて言うと、まちづくりを通して自己研鑽をしているような団体であり、全て会費については会員の持ち出しで行っている。いろいろなまちづくりの事業を行うが、大事にしなければいけないと思っていることは、三木市と方向性を合わせることである。そういった意味では、総合計画に記載されている現状と課題に沿ったような、それを解決するような取組を自分たちで考えて実施しているため、現状と課題の部分や、あるべき姿にたどり着けるような事業を自分たちで考えて一つ一つしていけば良いと思っている。その中で、市として考えられている優先度がこの中からわかれば良いと思う。1章から4章まであり、このまま1章の1「結婚出産子育てを支えるまち」が一番重要だと考えられているのだろうか。また、連携する枠組みの中で連携先やパートナーが具体的に書いてあるところ、抽象的に記載されているところもある。連携

先をどのように巻き込むかが大事になってくる。ここにどこまでを記載すべきなのかどうかは、私では判断しかねるが、市から重点に取り組む事業を示していただけたら我々としても集中して取り組むべきところがわかると思う。

(会長)

- ・確かにおっしゃる通り、優先順位について記載はされていないが、短期的に行うことと中長期的に考えなければいけないことを分けたとき、中長期的に考えてやらなければいけないことが記載されてある。すぐ行えることは記載していないので、それに対してどのように青年会議所として関わっていただくかは、なかなか簡単に言えないところはある。ただ、1章～4章は順番になっているかというところというわけではない。これは、ある程度同時に進めていかないといけないことであり、先ほど中長期的に考えてやらなければいけないと申ししたが、時間がかかりそうなもの、そこまで時間がかからなくてもどうにかやれそうなこと、新しい技術とかで何とかしていかなければいけないものと分かれてくると思う。質問で返すことになるが、青年会議所から、市の総合計画の取組に対して、意見や進めたい取組があることを表明したり、反映したりする機会はあるのか。

(委員)

- ・年に1回は、まちづくり事業をしており、市の後援を受けたり、観光協会と連携することはある。青年会議所で実施したい事業を行う際は、こちらからも働きかけている。

(会長)

- ・日常の活動の中で、この項目に対して貢献しているという整理の仕方をしていただけたら、青年会議所が総合計画のこの部分に対してこんな貢献ができているということが整理しやすくなると思う。ただ、現実問題として優先順位は、政策上あると思うが、それをここに記載することはなかなか難しい。技術革新で教育分野など世界でもタブレットやPCなどが標準になってきている。私達の学生もPCやタブレットで大学の講義を受講している状況である。前提になっているツールが変わっているため、そこから先の政策や取組も当然変わってきている。その点を検討いただき、青年会議所の活動の中でご意見や活動に貢献していることを評価していただければ良いと思う。

(委員)

- ・社会福祉協議会の立場、また地域でボランティアをしてときに感じたことについて述べたい。三木市には、300団体を超えるボランティア団体があり、他市と比較して、群を抜いて多いボランティアの数である。それぞれの団体が非常に力を持っている。ただ残念なことに、団体同士の繋がりがやや弱い。この繋がりがうまく繋がったとき、まちづくりにも力が出るのではないかと考えている。人と人を繋ぐ、組織と組織を繋ぐ、団体と団体が繋がっていると、多様な主体が有機的に繋がっていかなければ、力がでないと思う。
- ・総合計画が本当に5年先10年先の市政を舵取りしていく羅針盤にぜひなって欲しい。内容は合格点に近いのではないかなと思うが、確認したい点がある。三木自然愛好研究会をやっていて、三木市の自然環境を保全していく活動をしており、毎年行政と情報交換をしている。その際、活動を進めていく中で何を頼りにしているかということ、羅針盤である総合計画である。総合計画にこのような記載があるから、こうして三木市の自然を守っていかなければならないと考え、そう言ったときに、計画はそうだが現実はどうであるという風にいわれると何を頼りに活動を進めていけば良いのかとなってしまう。ぜひ総合計画を共有しながら、間違った方向に行かないように進めていきたい。人口が減っているが、三木市にはかなり力があると思っている。
- ・3ページ、その他の計画との関係について、「総合計画はそれぞれの部署において策定しているその他の計画を踏まえ」とある。総合計画を踏まえて、各部署が具体的な計画を立てなければいけないと思う。「その他の分野ごとの個別計画において定めることにより」とあるが、「その他の分野ごとに本計画を踏まえた個別計画」になると思う。「その他の計画の根幹をなす本計画」となる。
- ・5ページの価値観が多様化する社会について、5行目の「多様な性（LGBT）の尊重」とある。前回の総合計画では、LGBTQとなっていた。果たしてその言葉が良いのか。大阪府立大学では、ダイバーシティ宣言を2022年の4月に行った。同じときに大阪府立大学でSOGIに関するガイドラインを作成している。LGBTQをSOGIという言い方にしていこうという動きがある。LGBTやLGBTQと細切れにすると、そのうちのどれに当たるかと人を分類するようになってしまう。SOGIは、その人の性思考であり、誰にでも関係がある。5年先、10年先を見通す

総合計画であればS O G Iという言葉にしていけるのが良いのか、L G B T Qに対する差別を無くしていける法案があるため、L G B T Qにするのか、検討して欲しい。

(会長)

- ・おっしゃるとおりである。総合計画は市の最上位計画であり、個別計画を踏まえるのではなく、個別計画が総合計画を踏まえて作成されるべきであるので、記載について修正した方が良い。
- ・L G B T Qについて、L G B Tの記載を外すことも一つだと思う。表現が難しいが、性がどうであるかでさえ、属性として考える必要がない、個人でしかないとなりつつある。ただ、センシティブで、書かなければ配慮してないのかと言われてしまう。その辺りについては、何らかの研究が必要だと思う。おっしゃるとおり、どのような記述にするか少し検討させていただき、事務局に相談させていただき、修正したい。

(委員)

- ・今回、民生委員の協議会から基本計画の見直しに参加させていただきまして、しっかりとこの計画を見る機会を与えていただけて感謝申し上げたい。18ページの子育て支援環境を取り巻く変化について、「異次元の少子化対策として」と続いていき、「子育てしやすい社会環境整備が国を挙げて進めています」は、日本語としておかしいと感じる。
- ・民生委員の仕事として、市民のいろいろな声を聞きながら相談や支援などを専門機関あるいは行政に繋ぐことが一番大きな仕事である。この度、行政サービスが非常に行き届いた形で、基本計画の中に網羅されていることを改めて感じた。その中で一つ理解できてないところがある。行政については、市民の相談にのって市役所に繋ぐと、縦割り行政の弊害であった。一番市民が困っていることに、市でうまく対応してもらえないことがあった。読み進めると縦割り行政の弊害を解消できることがたくさん並んでいて、非常にありがたいと思う。
- ・130ページの黒丸の3つ目、「行政組織内の権限と責任を見直し」というところがある。どこが責任持って対応してくれるかということだと思うが、「市民サービスの提供に当たっては、常に市民目線での発想を重視し、」と非常に良いことが書いてあり、そのとおりだったら良いと思う。福祉の話とは別件であるが、去年の春から発生した問題で、1年間市役所にも何度か行ったが、全く変わらない状態で、切実に困っている問題がある。一

体誰が責任を持ってやろうとしているのか、タイトルと中身を読むが、それが見えない。文章の意味をもう少し詳しく伺いたい。

(会長)

- ・チーム三木と書いてあるとおり、みんなでやっていきましょうということである。市役所の職員の立場では、記載があるのに何かできない状態であればどうすればできるようになるかということを確認する意味もあると思う。総合計画に記載があるため、基本計画に従って外れないように進めてくださいと言っていて良いと思う。部局で横断的にされていることが繋がるようにも努めて欲しい。

(委員)

- ・1つ目は、学校で言う各教科の狙いや生活上の狙いがあり、指導がある。それを指導することは当たり前で、本年度の重要目標はこれであると力を入れる方針を出す。市でもすべきことがたくさんあり、三木市として、これまでの5年間、今後の5年間で何に力を入れるかを示して、10年、20年先の主な狙いはどこにあるかを柱として出して欲しい。10年先まで何に力を入れるか、市長の思いを中心に見えると良い。
- ・先ほど人権の話が出たが、学校教育での人権学習については、1990年代後半から明るい見通しを持った人権教育をしようと変わってきている。子どもの生活や大人、三木市全体の生活のどこを切り取っても、人として尊重されている三木市であって欲しいと思う。
- ・金物体験事業の満足度が指標になっている。指標が子どもたちの満足度で良いのか。三木市として、どのように民間企業を応援して育てようとしているか見えてこないのが指標について考えていただきたい。金物体験館などを作ることで三木市の誇りを市民と共有していきたい。
- ・訪問者数について、どこがカウントしているのか。三木鉄道記念公園でボランティアをしており、市外や県外からも廃線跡を見たいという方が多く訪れる。市外からどれぐらいの人が訪れているか知りたいと思い、観光振興課にこれまでの訪問者の記録を見せてもらおうとしたが、保存されていなかった。そのため詳細が分からなかった。何のために記録して、何のためにやっているのか。どこかが責任持ってやって欲しいと思う。
- ・次に、私が前回発言した内容がしっかりと議事録にまとめられていた。三木地区中心市街地再生プロジェクトを実施してほしい。三木城下町まちづくり協議会に属しているが、三木市の将来に向けて考えたく参加したいと

思っていた。市役所の部署が横断的に協力してできれば嬉しいと思う。5年、10年後の三木市の中心市街地が金物や酒などが絡まって、訪れる人が増えれば街並みが賑やかになる。そのための方針を伺いたいと思う。属する団体の高齢化が進んでいる中で、後継者を作りたいと思うが、なかなかうまくいかない。現在、取り組んでいる体験学習会への北播磨県民局からの補助金は、来年3分の2に減り、3年後には無くなる。準備や実施にお金がかかり、市の補助金や参加者負担だけでは実施できないため、何かしら応援していただけたら嬉しいと思う。総合計画では117ページの一番下、「歴史・美術の杜みゅーじあむ事業では、三木城跡と城下町との連携を進め、魅力的なストーリー性のある周遊ルートを確立する必要があります」とある。各課の施策では対応しきれないことなので、市役所の各部署で横断的な取組により、今後の三木地区の再生や活性化を図っていただきたい。

(会長)

- ・担い手の問題がある。現在、ご奮闘くださっている各団体の活動を市民の皆さんに知っていただく必要がある。総合計画にどのような連携をしていくべきなのか、表現できるように考えていきたいと思う。

(委員)

- ・三木市の総合計画は、市民から見ても良く出来ていると思う。また審議会の進め方も会長をはじめ、丁寧に意見を聞いて反映されていて、想像以上に丁寧に進められていると思った。一市民として、様々なアクションがあると思うが、計画に参画して、このまちをいいものにしていきたいと思う。意見としては、総合計画の理念はしっかりしていると思う。普遍的な理念はここにあり、目指していることが三木市の総合計画になっていると思う。一方で、社会動向として コロナや戦争が起き、今後ともますます混沌としていると思う。5年や3年ではなく、大きな変化のときには各部署で見直されていると思うが、アクションを起こして、軌道修正すべきところは修正して、柔軟性がある総合計画にされた方が良いと思う。

(委員)

- ・学校教育に関することを3点問い合わせていただく。
- ・まず1点目、46ページの幼保一体化計画の推進について、45ページの指標で、入所保留児童数の実績が140人と109人、目標が0人となっ

ているが、このような目標は実施可能なのかと思う。「保育園等の人材確保が不可欠です」について、勤めていた学園でも保育教諭の確保が非常に困難だった。職員の待遇や条件が重要となるため、三木市で人材確保しやすい具体的な取組をお願いしたい。

- ・ 2点目は、48ページのICT機器の整備の2つ目に、「必要なソフトを整備し、全ての教員が適切に活用するための研修を行います。」という内容があるが、前回の会議で質問させていただいたときに教育振興部長から説明を伺った。東京書籍に統一したという回答があったと思うが、リクルートのスタディサプリについて、個人情報に関する問題で政府が勝手に登録をして保護者まで伝わっていなかったという事件があった。問題ないと思うが、三木市も学校や市が言っているからとならないようにセキュリティ対策もしっかりと取り組んで欲しいと思う。可能であれば、文面を「必要なソフトのセキュリティ対策をしっかり行い整理する。そして、全ての教員が活用するための研修を行う。」という文言に修正できたら良いと思う。
- ・ 3点目、次期策定に向けての検討について、指標のアンケートの方法に対して、PDCAサイクルで何らかの形で数値評価する必要があると思う。数値を出さなければ評価できないと思う。1つ目は、評価するためには、各柱の項目の取組の市民への情報発信が非常に重要だと思う。実際、審議会に参加させていただいて、三木市のいろんな取組が見えてきたということが事実である。方法として、三木市のホームページが一番だと思う。例えば、学校教育であれば、それぞれの学校のホームページに出していただいたが、政策の取組の情報発信ができているのかということ、そうではないと思う。伝わっていない部分があるため、見える化をしていただきたい。2つ目は、評価報告は市民アンケートで無作為抽出で行っていた。それだけではなく、各担当部署で自己評価、また市民の各企業団体で自己評価を総合して評価をしていくような形で行うのはどうかと考える。

(会長)

- ・ 具体的なご指摘ありがとうございます。次期も含めての指摘であり、今回の修正は事務局と相談させていただく。学校単位での広報は、取組や情報発信がどの程度できているのかも含めて検討になると思う。

(副会長)

- ・ 事務局から説明があった資料1について、取組については具体的に書き込

み過ぎず、計画そのものはこの内容になるという説明であった。個別の具体的な政策に落とし込むときにより具体的な形になると良い。書きぶりで気になるところは、チーム三木の取組で市役所が進めること、市民に進めていただくこと、企業団体に進めていただくことで、市役所側で役割分担を勝手に決めて市民に責任を押しつけているように見えるため、違和感がある。個別の具体的な施策などは、それぞれの担当課としっかりコミュニケーション取って行わなければならない。それぞれの責任分担を明確にすることによって、責任逃れにならないようにしながら、あくまでもチームであるため、みんなで一緒に行っていくことが必要である。様々な立場の方たちが多様な意見を持っていながらも、対等な立場でコミュニケーションして合意形成を行い、チームとして進めて欲しい。

(会長)

- ・おかげさまで少しずつ修正できてきたと思う。将来の総合計画に向けても皆様からご意見をいただくことができた。3回にわたってご審議いただき、ありがとうございました。